

OPINION

中部経済新聞

ナヒゲーター

世界は多くの衝撃に直面していますが、ジンバブエは経済状況を改善させながら本年を迎えました。4年前から、ロシア・ウクライナ戦争の影響で燃料や食料の価格は高止まりしています。今年2月に

日本への期待
世界各地から

H

188

近況と経済的な背景

て、リチウム、金、プラチナの輸出を拡大させました。これは、本年からの5カ年計画「NDS2(国家開発戦略2)」と「ビジョン2030」という中上位所得国を目指す明確な計画に沿うもので、両者は整合化されています。公的債務とまだ廃止されない米国の経済制裁法「ZIEDERA」は、投資家がデューデリジェンスを行う上で引き続き留意すべき点です。このコラムの次回以降で「PESTLE」分析と「SWOT

ジンバブエから(上)

「TOWS」分析を用いて、日本の第9回アフリカ開発会議(TICAD9)が掲げる「平和」「成長」「若者、女性のエンパワメント」という重要項目と関連付けながら、投資先としてのジンバブエを評価してみます。

NDS2は、ビジョン2030を基盤とするジンバブエの5カ年計画です。このロードマップは、長期的な関与に慣れている日本の投資家にとって適した枠組みでしょう。NDS2は、鉱業、農業、製

位置づけている点は、昨年開催されたTICAD9の経済、社会、平和と安定という三本柱とも合致しています。具体的には内容や方法論を見てもみずと、ジンバブエは計画的な経済安定化を図る一方で、自国の制御が及ばない世界的な衝撃に直面してきました。2024年4月に導入さ

れたジンバブエ・ゴールド(ZiG)は、本年2月までにインフレ率を3・8%にまで低下させ、外貨準備高は2億7600万米ドルから12億米ドルへと4倍に拡大しました。GDP成長率は昨年6・6から7・6%に達し、本年は5%が見込まれています。

【チャールズ・マザザ、リム中産連】
(月曜日に掲載)